

平成 26 年 2 月 28 日

学位論文審査、最終試験並びに学力の確認結果報告書

大 学 院 薬 学 研 究 科 長 殿

主 査 齊 藤 浩 司



副 査 豊 田 栄 子



副 査 大 倉 一 枝



副 査 小 林 道 也



このたび 下 山 哲 也 にかかわる学位論文審査、最終試験並びに学力の確認を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

嚥下障害患者における易服用性を考慮したメチルセルロース/アルギン酸混合系による新規経口徐放性液剤の開発研究

2. 論文要旨 別 添

3. 学位論文審査の要旨

本学位論文は、易服用性と徐放性を兼ね備えた経口液剤として、温度応答性高分子であるメチルセルロースとイオン応答性高分子であるアルギン酸の混合溶液を調製し、その有用性を多面的に検討した研究結果をまとめたものである。そして、ゾル状態で投与されたメチルセルロース/アルギン酸液剤が胃内でゲル化することにより持続的な血中薬物濃度推移が得られること、混合液剤とすることでメチルセルロース単独液剤における保存温度の問題点を改善できること、さらに添加する薬物の分子量や pK_a の違いにより本混合液剤の物性が変化しても実用性には影響がなく様々な薬物に適用可能であることなど、臨床上の応用性が高い新規知見を報告している。

予備審査で指摘された内容を踏まえ、論旨の通った学位論文となっており、また本研究の成果は嚥下機能障害を有する患者が安全に医薬品を服用できる経口製剤の開発に貢献するものであると評価される。

4. 最終試験（学力の確認）の要旨

研究発表会では決められた時間の中で内容のまとまったプレゼンテーションを行い、質疑に対しても適切な返答をした。口頭試問においても専門知識に基づいた説明がなされ、学位授与に値する十分な実力を有すると判断された。

以上の結果 下 山 哲 也 は博士（薬学）の学位を授与する資格の
定する。

ある

ものと判

~~ない~~

以上